

2019/5/16

柏の景気情報（平成31年4月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
T E L : 04-7162-3305
F A X : 04-7162-3323
U R L : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成31年4月分）

○ 調査期間：平成31年4月25日～令和1年5月12日

○ 調査対象：柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	70	44.9%
建設	44	19	43.2%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	44	25	56.8%
サービス	35	11	31.4%

○ 調査方法と調査表：下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

--

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり意味着。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成31年4月の業況についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.5(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大した。

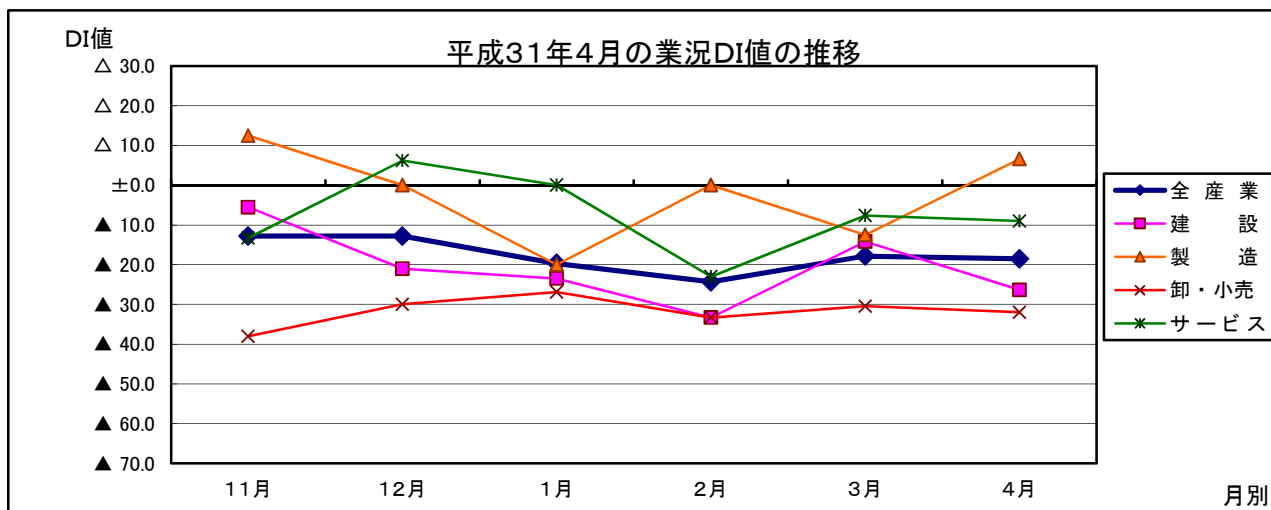
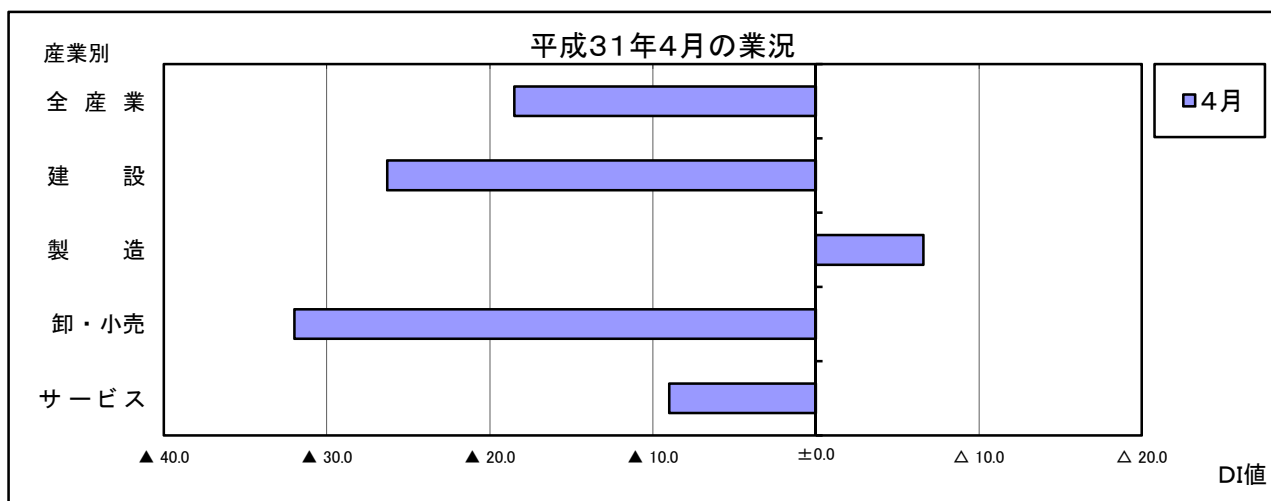
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.6(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.3(同▲14.2)、卸小売業▲32.0(同▲30.4)、サービス業▲9.0(同▲7.6)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.5(前月水準▲19.1)となり、マイナス幅が0.6ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.0(同▲43.4)、建設業▲21.0(同▲23.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業±0.0(同△12.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲18.1(同▲7.6)である。

平成31年4月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲12.8	▲12.8	▲19.7	▲24.3	▲17.8	▲18.5	▲18.5(▲19.1)
建設	▲5.5	▲21.0	▲23.5	▲33.3	▲14.2	▲26.3	▲21.0(▲23.8)
製造	△12.5	±0.0	▲20.0	±0.0	▲12.5	△6.6	±0.0(△12.5)
卸・小売	▲38.0	▲30.0	▲26.9	▲33.3	▲30.4	▲32.0	▲28.0(▲43.4)
サービス	▲13.3	△6.2	±0.0	▲23.0	▲7.6	▲9.0	▲18.1(▲7.6)



【平成31年4月の売上についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.4(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が9.1ポイント拡大した。

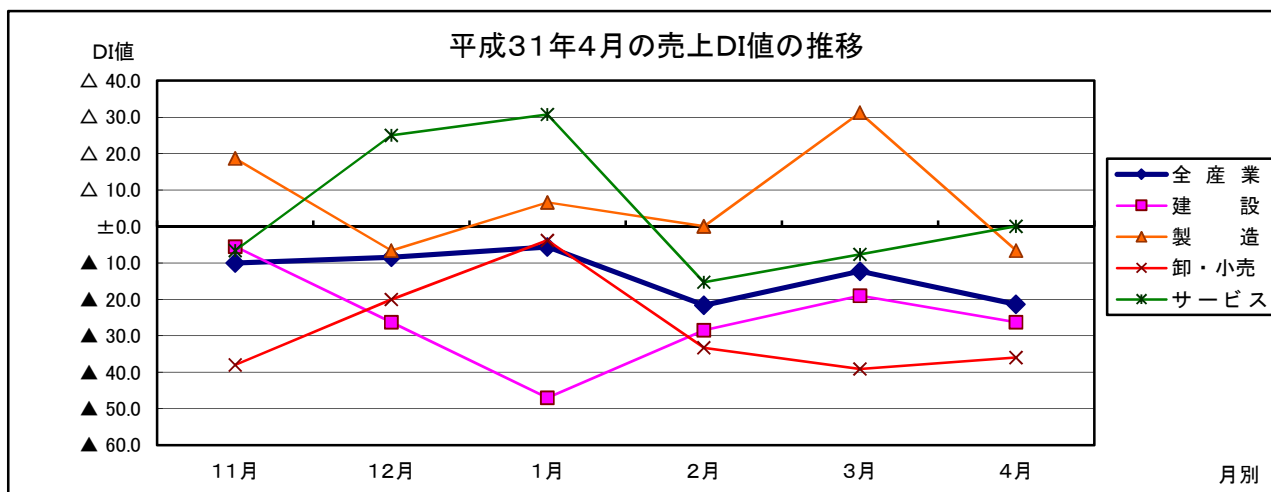
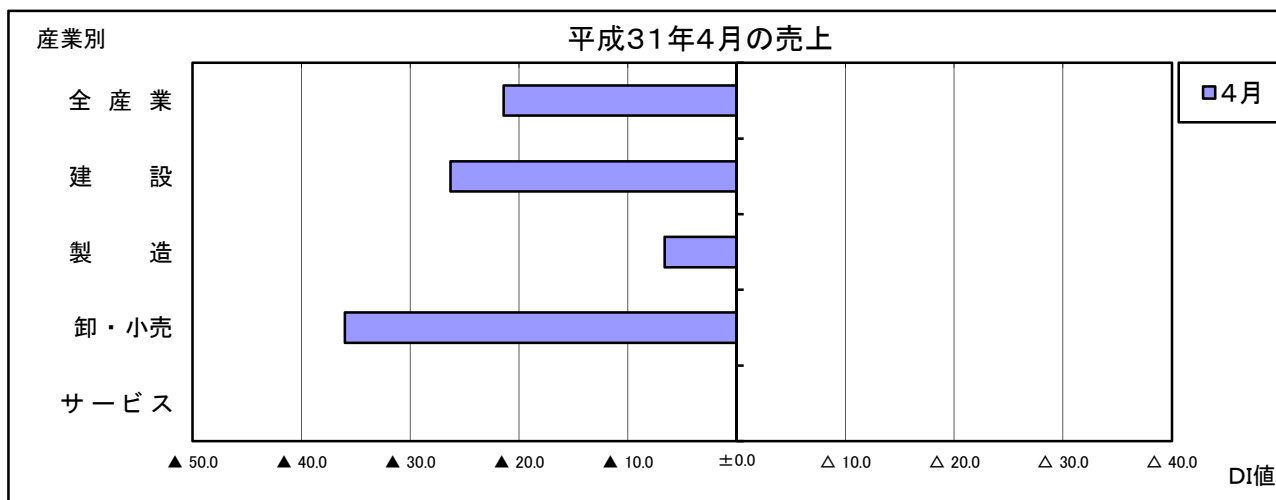
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業±0.0(同▲7.6)、卸小売業▲36.0(同▲39.1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.6(同△31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲26.3(同▲19.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.1(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が7.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△18.1(同△15.3)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲5.2(同▲28.5)、卸小売業▲20.0(同▲34.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲6.6(同△6.2)である。

平成31年4月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲10.0	▲8.5	▲5.6	▲21.6	▲12.3	▲21.4	▲7.1(▲15.0)
建設	▲5.5	▲26.3	▲47.0	▲28.5	▲19.0	▲26.3	▲5.2(▲28.5)
製造	△18.7	▲6.6	△6.6	±0.0	△31.2	▲6.6	▲6.6(△6.2)
卸・小売	▲38.0	▲20.0	▲3.8	▲33.3	▲39.1	▲36.0	▲20.0(▲34.7)
サービス	▲6.6	△25.0	△30.7	▲15.3	▲7.6	±0.0	△18.1(△15.3)



【平成31年4月の採算についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.1(前月水準▲27.3)となり、マイナス幅は0.2ポイント縮小した。

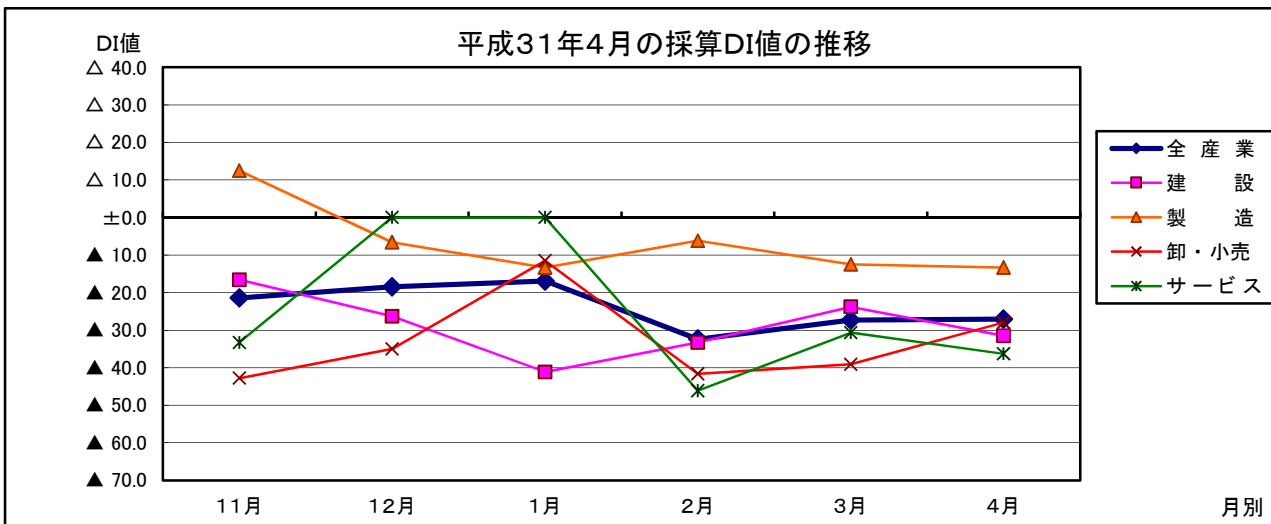
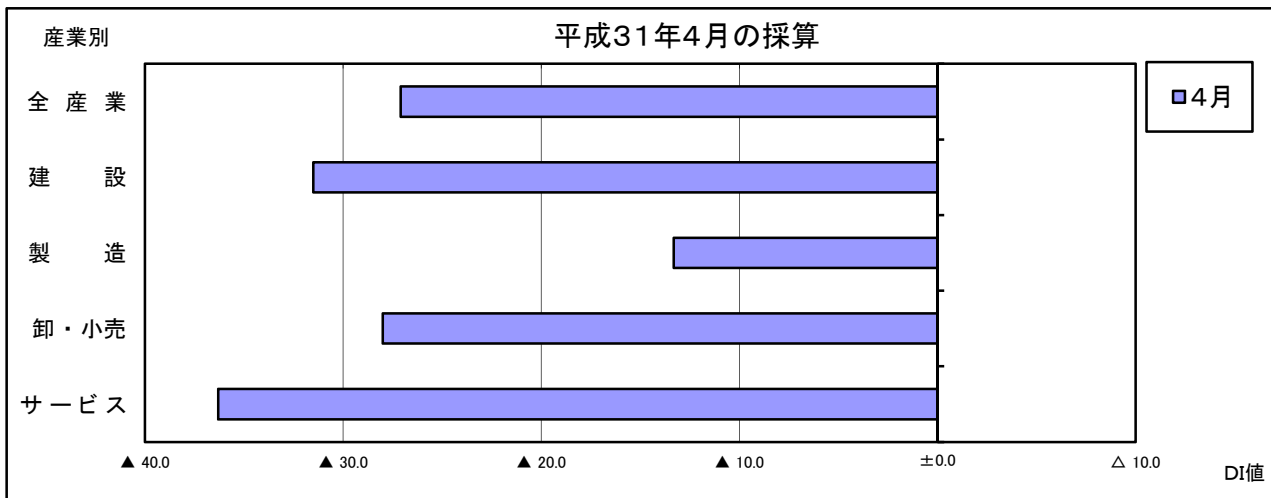
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲28.0(同▲39.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲31.5(同▲23.8)、サービス業▲36.3(同▲30.7)、製造業▲13.3(同▲12.5)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.7(前月水準▲24.6)であり、マイナス幅が8.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲24.0(同▲47.8)、建設業▲15.7(同▲38.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業±0.0(同△7.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲13.3(同±0.0)である。

平成31年4月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲21.4	▲18.5	▲16.9	▲32.4	▲27.3	▲27.1	▲15.7(▲24.6)
建設	▲16.6	▲26.3	▲41.1	▲33.3	▲23.8	▲31.5	▲15.7(▲38.0)
製造	△12.5	▲6.6	▲13.3	▲6.2	▲12.5	▲13.3	▲13.3(±0.0)
卸・小売	▲42.8	▲35.0	▲11.5	▲41.6	▲39.1	▲28.0	▲24.0(▲47.8)
サービス	▲33.3	±0.0	±0.0	▲46.1	▲30.7	▲36.3	±0.0(△7.6)



【平成31年4月の仕入単価についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲35.7(前月水準▲42.4)となり、マイナス幅が6.7ポイント縮小した。

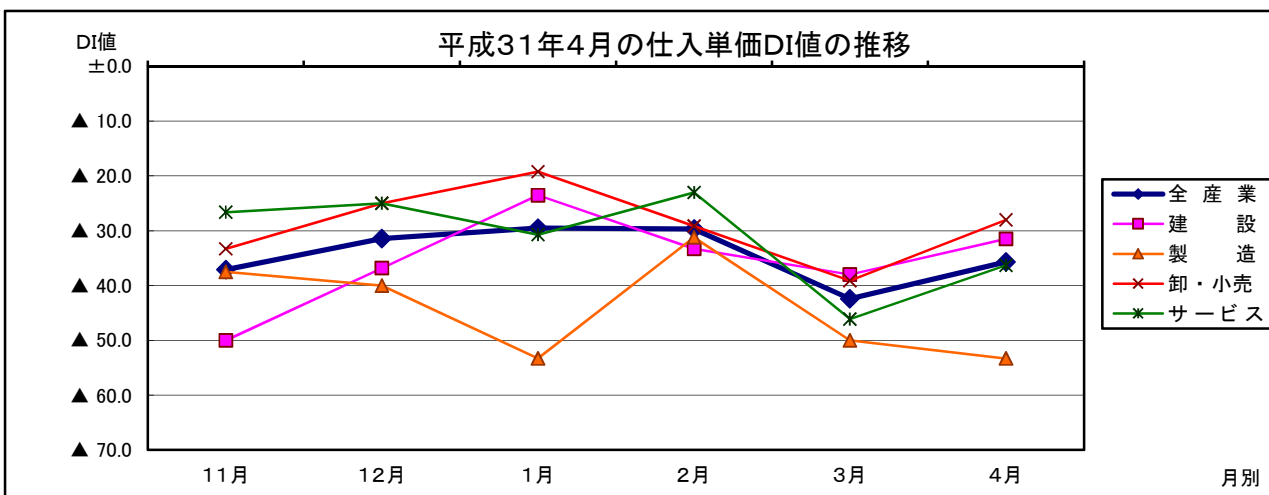
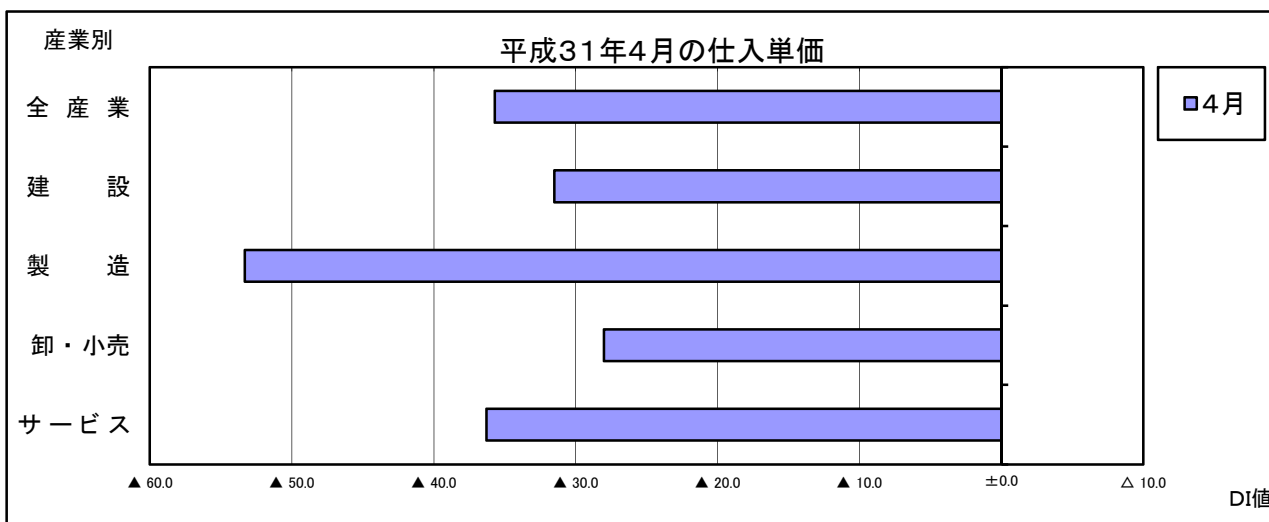
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28.0(同▲39.1)、サービス業▲36.3(同▲46.1)、建設業▲31.5(同▲38.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲53.3(同▲50.0)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲24.2(前月水準▲35.6)となり、マイナス幅が11.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲21.0(同▲47.6)、製造業▲20.0(同▲37.5)、サービス業▲18.1(同▲23.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲32.0(同▲30.4)である。

平成31年4月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲37.1	▲31.4	▲29.5	▲29.7	▲42.4	▲35.7	▲24.2(▲35.6)
建設	▲50.0	▲36.8	▲23.5	▲33.3	▲38.0	▲31.5	▲21.0(▲47.6)
製造	▲37.5	▲40.0	▲53.3	▲31.2	▲50.0	▲53.3	▲20.0(▲37.5)
卸・小売	▲33.3	▲25.0	▲19.2	▲29.1	▲39.1	▲28.0	▲32.0(▲30.4)
サービス	▲26.6	▲25.0	▲30.7	▲23.0	▲46.1	▲36.3	▲18.1(▲23.0)



【平成31年4月の従業員についての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△27.1(前月水準△28.7)となり、プラス幅が1.6ポイント縮小した。

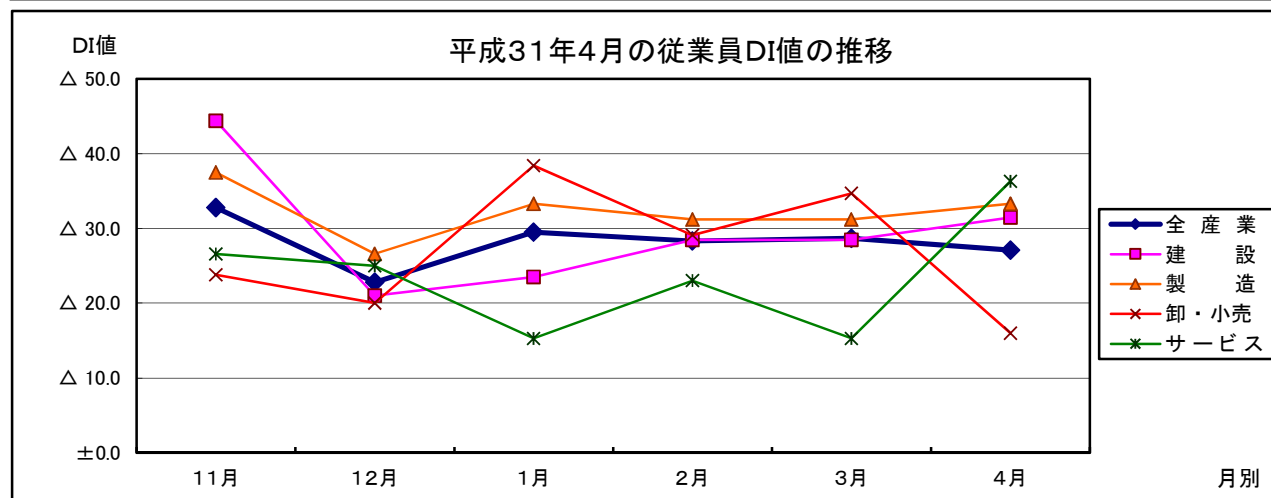
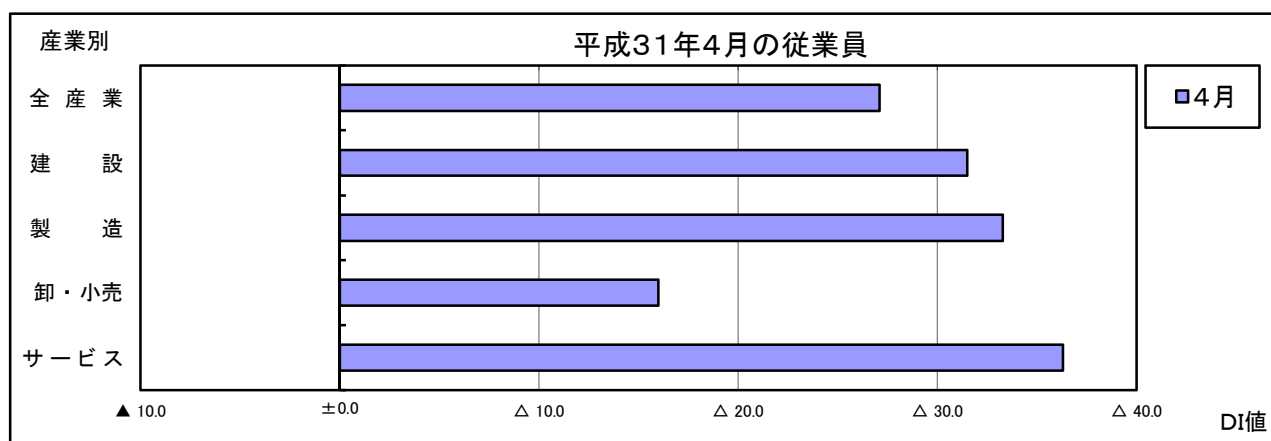
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△36.3(同△15.3)、建設業△31.5(同△28.5)、製造業△33.3(同△31.2)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業△16.0(同△34.7)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、△25.7(前月水準△28.7)となり、プラス幅が3.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△36.8(同△28.5)、サービス業△36.3(同△30.7)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△26.6(同△37.5)、卸小売業△12.0(同△21.7)である。

平成31年4月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成30年 11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	△32.8	△22.8	△29.5	△28.3	△28.7	△27.1	△25.7(△28.7)
建設	△44.4	△21.0	△23.5	△28.5	△28.5	△31.5	△36.8(△28.5)
製造	△37.5	△26.6	△33.3	△31.2	△31.2	△33.3	△26.6(△37.5)
卸・小売	△23.8	△20.0	△38.4	△29.1	△34.7	△16.0	△12.0(△21.7)
サービス	△26.6	△25.0	△15.3	△23.0	△15.3	△36.3	△36.3(△30.7)



【平成31年4月の資金繰りについての状況】

○ 4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.0(前月水準▲12.3)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小した。

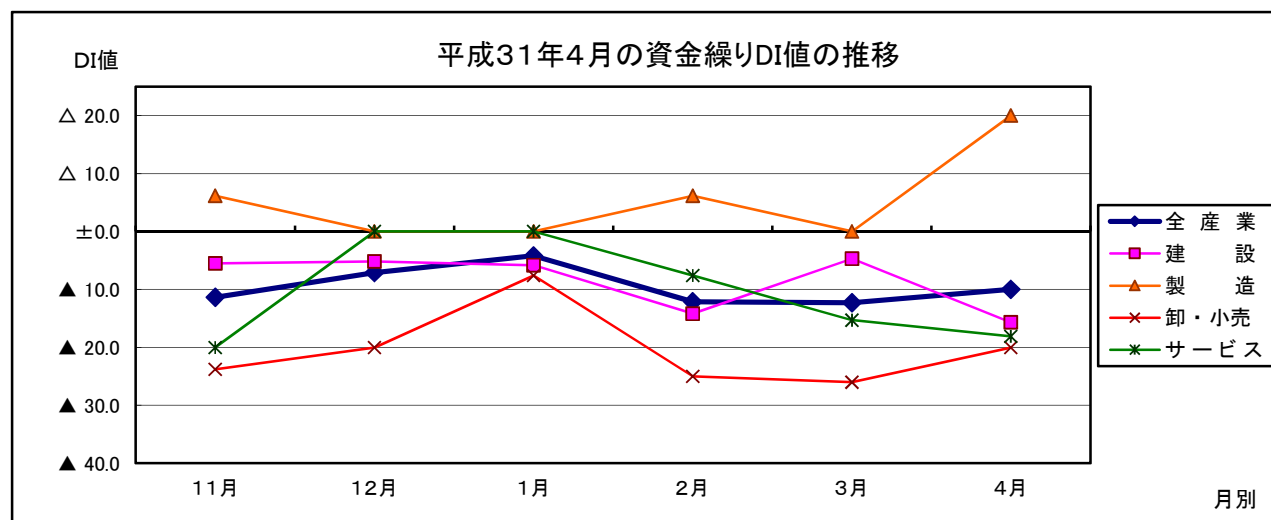
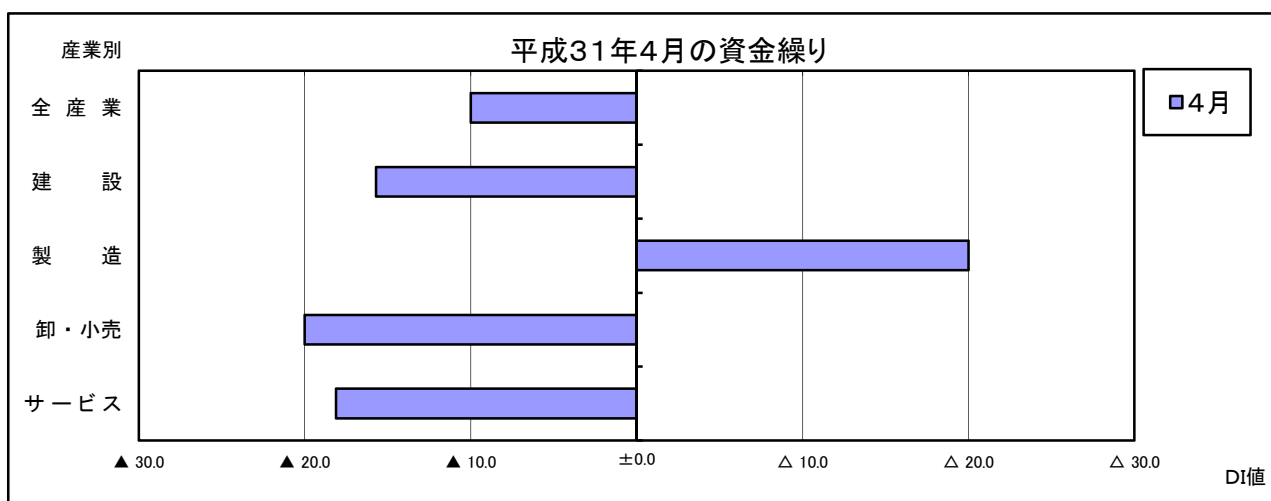
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△20.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲20.0(同▲26.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲15.7(同▲4.7)、サービス業▲18.1(同▲15.3)である。

○ 向こう3ヶ月(5月から7月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.8(前月水準▲13.6)となり、マイナス幅が0.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲28.0(同▲39.1)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲9.0(同±0.0)、建設業▲5.2(同▲4.7)である。

平成31年4月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成30年 11月	12月	平成31年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5月～7月(4月～6月)
全産業	▲11.4	▲7.1	▲4.2	▲12.1	▲12.3	▲10.0	▲12.8(▲13.6)
建設	▲5.5	▲5.2	▲5.8	▲14.2	▲4.7	▲15.7	▲5.2(▲4.7)
製造	△6.2	±0.0	±0.0	△6.2	±0.0	△20.0	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲23.8	▲20.0	▲7.6	▲25.0	▲26.0	▲20.0	▲28.0(▲39.1)
サービス	▲20.0	±0.0	±0.0	▲7.6	▲15.3	▲18.1	▲9.0(±0.0)



【平成31年4月の調査結果のポイント】

《全産業況DIは再び悪化。先行きは横ばい圏内の動き》

○4月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.5(前月水準▲17.8)となり、マイナス幅が0.7ポイント拡大した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△6.6(同▲12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲26.3(同▲14.2)、卸小売業▲32.0(同▲30.4)、サービス業▲9.0(同▲7.6)である。

【建設業】からは、「社内でキャッシュレス化について意見がまとまらず、暗礁に乗り上げている」(畳店製造小売業)、「働き方改革の影響もあり、大幅に作業時間が減り売上、利益も減少。また、キャリアアップシステムや登録業務等が増え、事務処理が忙しい。毎年4月は売上が減少するが、今年は極端に落ち込んだ。日、祝日、天候不良による施工不能日もある為、今後大幅な売上増加は望めそうにない。効率良い作業方法で状況改善するよう取引先に申請中」(職別工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「仕入単価が一部上がっているが、販売価格に反映しているので、粗利益は若干増。顧客の人材不足が深刻で、慢性的に仕事がおこなえない状況」(自動車付属品製造業)、「中国市場のプレーキが幅広い業種に影響を与え、不透明感が増している。Windows7のサポート終了に伴う投資は予定外」(金属素形材製品製造業)、「経済の軸足のずれが起きている。その判断に会社の命運がかかっている。厳しい状況を認識」(印刷業)、「人手、特に技能者が不足しており募集を掛けても集まらない」(機械・同部品製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「今後9月までは増税前の消費動向を見越した仕掛けにより、売上高増加見込み」(百貨店)、「紙製品、特にコピー用紙の値上がりが顕著」(書籍・文房具小売業)、「4月は前年に比べ売上増加したが、3月に比べると伸びは鈍化」(各種商品小売業)、「入学入園関連の売上が昨年より増。イベントも好調！」(菓子・パン小売業)、「3月の最悪状態は脱したが、天気、気温の変化が激しかった為、客数、客単価共に昨年対比を下回った」(婦人・子供服小売業)、「今年は2月下旬から業績悪化。選挙が多い年はいつも悪くなるが特に人の出方が悪い。『ポケモンGO』を目的の方が集まるも買い物せず。人件費を確保する為の技術料も転嫁できない」(時計・眼鏡・光学機械小売業)、「気温が上がらず春物衣料品の動向が悪く、値下げをして採算とれず苦戦」(各種商品小売業)、「集客の伸びは維持しているものの、売上はわずかに前年割れ。今まで前年を超えてきた化粧品売上がウィッグを除いて停滞」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「日本経済は米、中両国にかかる。米の対中国に対する読みを楽観視すると国内景気の鈍化を催促するか。令和の新経済は来年にオリンピックを控え明るい方に向かおうとするが、10月からの消費税10%は相当厳しい」(投資顧問)、「トラック運賃は値上がり基調にあるものの、荷主の理解を得られないケースが散見され課題に」(一般貨物自動車運送業)、「塾の乱立を考えると『商業の街』より『教育の街』として色付けをしてくれた方が、不動産的にはありがたい」(不動産賃貸業)、「消費税対応が間もなくと思える」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎改元による影響

「改元で景気は上昇ムードだが業界的には伝わらず、状況が好転するのを期待」(電気工事業)、「元号発表後に『ありがとう平成』セールを実施。大きな反響は得られず」(各種商品小売業)、「改元による活発な消費動向を感じることはできなかった」(百貨店)、「元号切り替え作業は穏やか」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

◎大型連休の影響

「休みばかり多くて売上が減少するだろう」(機械器具小売業)、「大型連休により稼働日数が少なく売上減少。全体的な景況も良くない」(自動車付属品製造業)、「GWを理由に、欠品防止策の注文が増えて前年の売上を上回った。しかし、この反動が5月に来るので先の不透明感是不変。暖冬の影響で、果実の生育が遅れているとの情報あり」(食料・飲料卸売業)、「歓送迎会での宴会予約が昨年より増。超大型連休での中だるみ等で、売上減少が見込まれる」(日本料理)との声が寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
見通し	▲18.5	▲21.0	±0.0	▲28.0	▲18.1

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 21.4	▲ 7.1	▲ 27.1	▲ 15.7	▲ 35.7	▲ 24.2	△ 27.1	△ 25.7
建設	▲ 26.3	▲ 5.2	▲ 31.5	▲ 15.7	▲ 31.5	▲ 21.0	△ 31.5	△ 36.8
製造	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 53.3	▲ 20.0	△ 33.3	△ 26.6
卸・小売	▲ 36.0	▲ 20.0	▲ 28.0	▲ 24.0	▲ 28.0	▲ 32.0	△ 16.0	△ 12.0
サービス	±0.0	△ 18.1	▲ 36.3	±0.0	▲ 36.3	▲ 18.1	△ 36.3	△ 36.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 18.5	▲ 18.5	▲ 10.0	▲ 12.8
建設	▲ 26.3	▲ 21.0	▲ 15.7	▲ 5.2
製造	△ 6.6	±0.0	△ 20.0	±0.0
卸・小売	▲ 32.0	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 28.0
サービス	▲ 9.0	▲ 18.1	▲ 18.1	▲ 9.0

【平成31年4月業種別業界内トピックス】

業種別	概 況	トピック	業種
建設	休みばかり多くて売上が減少するでしょう。	大型連休の影響	機械器具小売業
	社内でキャッシュレス化についての意見がまとまらず、暗礁に乗り上げている。	キャッシュレス	量店製造小売業
	改元で景気は上昇ムードだが業界的には伝わらず、これからの状況が好転するのを期待。	改元による影響	電気工事業
	働き方改革の影響もあり、大幅に作業時間が減少。その結果、売上、利益も減少となっている。また、キャリアアップシステム等登録業務等が増え、事務処理が忙しい。毎年4月は売上減少ではあるが、今年は極端に落ち込んだ。日、祝日、天候不良による施工不能日もある為、今後大幅な売上増加は望めそうにない。効率良い作業方法で状況を改善するよう取引先に申請中。	働き方改革による影響 売上減少	職別工事業
製造業	大型連休により稼働日数が少なく売上減少となった。全体的な景況も良くない。仕入単価が一部上がっているが、販売価格に反映しているので、粗利益は若干増。顧客の人材不足が深刻で、仕事があるのにこなせない状況が慢性的になっている。	大型連休の影響 人材不足	自動車付属品製造業
	中国市場のプレーキが幅広い業種に影響を与え、不透明感が増している。Windows7のサポート終了に伴う投資は予定外。	中国市場の影響	金属素形材製品製造業
	経済の軸足のずれが起きている。その判断に会社の命運がかかっている。厳しい状況を認識する。	景況悪化	印刷業
	人手、特に技能者が不足しており募集を掛けても集まらない。	人材不足	機械・同部品製造業
卸小売業	3月の最悪状態は脱したが、やはり天気、気温の差が大きく、販売し辛かった。客数、客単価共に昨年対比を下回った。	売上減少	婦人・子供服小売業
	今年は2月下旬から業績悪化。選挙多き年はいつも悪くなるが特に人の出方は悪くなったと思う。「ポケモンGO」を目的の方が多く集まってくるが買い物せず。人件費を確保する為の技術料も転嫁できません。	売上減少	時計・眼鏡・光学機械小売業
	気温が上がらず春物衣料品の動向が悪く、値下げに繋がった為採算が取れず苦戦した。元号発表後に「ありがとう平成」セールを実施。大きな反響までは得られず。	採算減少 改元による影響	各種商品小売業
	4月中旬より7月上旬までは毎年売上が減少する。	先行き売上減少見込み	書籍・文房具小売業
	集客の伸び(前年比+4.7)は維持しているものの、松戸伊勢丹閉店から1年が経過し、売上はわずかに前年割れ(前年比△0.5)。改元による活発な消費動向を感じることはできなかった。今まで前年売上高を超えてきた化粧品売上がウィッグを除いて停滞(前年比△2.9)。今後9月までは増税前の消費動向を見越した仕掛けにより、売上高増加見込み。	売上減少 改元による影響 先行き売上増加見込み	百貨店
	紙製品、特にコピー用紙の値上がりりが顕著だ。	経費増加	書籍・文房具小売業
	4月は前年に比較すると売上増加も、3月に比べると伸びは鈍化。	売上停滞	各種商品小売業
	入学入園関連の売上が昨年より増。イベントも好調！	売上増加	菓子・パン小売業
	GWを理由に、欠品防止策の注文が増えて前年の売上を上回った。しかし、この反動が5月に来るので先の不透明感是不変わらない。暖冬の影響で、果実の生育が遅れている情報が入る。	大型連休の影響 先行き不透明	食料・飲料卸売業
サービス業	歓送迎会での宴会予約が昨年より増。超大型連休での売上中だるみ等で、売上減少が見込まれる。	顧客増加 大型連休の影響	日本料理
	日本経済は米、中両国にかかる。米の対中国に対する読みを楽観視すると中国内部の少子高齢化等、低成長の窓開けと共に低金利不況は国内景気の鈍化を催促するか。令和の新経済は来年のオリンピック、パラリンピックを控え明るい方に向かおうとするが、10月からの消費税10%は相当厳しい。地銀等融資先は一部偏り過ぎ、個人も手詰まり。4月以降日経平均が大きく下げを想定(17,000円割れ)。厳しい環境の中消費税延期を問う選挙になるかもしれないと見ている。ただし、この調整があれば2020～22年に日経平均は第4次産業革命と共に市場最高値挑戦か。	米中貿易摩擦 消費税増税	投資顧問
	トラック運賃は値上がり基調にあるものの、荷主の理解を得られないケースがまだ散見され、課題となっている。	運送費増加	一般貨物自動車運送業
	塾の乱立を考えると「商業の街」より「教育の街」として色付けをしてくれた方が、不動産的にはありがたい。妙なまちづくりは×。	柏のまちづくり	不動産賃貸業
	元号切替作業は穏やかで、消費税対応が間もなくと思える。	改元による影響	ソフトウェア業

◎改元による影響

「改元で景気は上昇ムードだが業界的には伝わらず、状況が好転するのを期待」(電気工事業)、「元号発表後に「ありがとう平成」セールを実施。大きな反響は得られず」(各種商品小売業)、「改元による活発な消費動向を感じることはできなかった」(百貨店)、「元号切り替え作業は穏やか」(ソフトウェア業)との声が寄せられた。

◎大型連休の影響

「休みばかり多くて売上が減少するだろう」(機械器具小売業)、「大型連休により稼働日数が少なく売上減少。全体的な景況も良くない」(自動車付属品製造業)、「GWを理由に、欠品防止策の注文が増えて前年の売上を上回った。しかし、この反動が5月に来るので先の不透明感は変わらない。暖冬の影響で、果実の生育が遅れているとの情報あり」(食料・飲料卸売業)、「歓送迎会での宴会予約が昨年より増。超大型連休での中だるみ等で、売上減少が見込まれる」(日本料理)との声が寄せられた。

平成31年4月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.5に対し、「CCI-LOBO」が▲16.7で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲21.4に対し、「CCI-LOBO」が▲9.2で柏の方がマイナス幅が12.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.1に対し、「CCI-LOBO」が▲16.0で柏の方がマイナス幅が11.1ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲35.7に対し、「CCI-LOBO」が▲45.0で柏の方がマイナス幅が9.3ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△27.1に対し、「CCI-LOBO」が△24.5で柏の方がプラス幅が2.6ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲10.0に対し、「CCI-LOBO」が▲9.6で柏の方がマイナス幅が0.4ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業であり、建設業、サービス業は10ポイント以上悪い。

平成31年4月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI $\geq$ 50	好調 50>DI $\geq$ 25	まあまあ 25>DI $\geq$ 0	不振 0>DI $\geq$ ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.5	 ▲ 26.3	 6.6	 ▲ 32.0	 ▲ 9.0
CCI—LOBO	 ▲ 16.7	 ▲ 3.9	 ▲ 18.3	 ▲ 33.9	 ▲ 7.9

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.4	 ▲ 26.3	 ▲ 6.6	 ▲ 36.0	 ±0.0
CCI—LOBO	 ▲ 9.2	 0.7	 ▲ 9.4	 ▲ 27.0	 0.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 27.1	 ▲ 31.5	 ▲ 13.3	 ▲ 28.0	 ▲ 36.3
CCI—LOBO	 ▲ 16.0	 ▲ 11.1	 ▲ 18.1	 ▲ 25.7	 ▲ 10.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 35.7	 ▲ 31.5	 ▲ 53.3	 ▲ 28.0	 ▲ 36.3
CCI—LOBO	 ▲ 45.0	 ▲ 48.2	 ▲ 52.0	 ▲ 38.6	 ▲ 42.3

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 27.1	 31.5	 33.3	 16.0	 36.3
CCI—LOBO	 24.5	 33.6	 14.9	 24.2	 33.2

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.0	 ▲ 15.7	 20.0	 ▲ 20.0	 ▲ 18.1
CCI—LOBO	 ▲ 9.6	 ▲ 2.9	 ▲ 11.1	 ▲ 18.3	 ▲ 6.1

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(4月速報)

調査期間：2019年4月11日～17日

調査対象：全国の363商工会議所が2600企業
にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、ほぼ横ばい。

先行きは、懸念材料多く、慎重な見方崩れず

4月の全産業合計の業況DIは、▲16.7と、前月から+0.2ポイントの改善。都市部を中心に民間工事が堅調な建設業に加え、4月上旬の寒波の影響により例年に比べ花見期間が長くなり、客数が増加するなど、インバウンドを含めた春の好調な観光需要を取り込んだ宿泊・飲食業を中心とするサービス業の業況が改善した。他方、受注が減少した半導体や産業用機械、自動車関連の不振に加え、深刻な人手不足の影響拡大や根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりの影響を指摘する声は依然として多く、中小企業の景況感は足元でほぼ横ばいの動きとなっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲18.4（今月比▲1.7ポイント）と改善を見込む。改元を契機とする個人消費の拡大や10連休に伴う観光需要拡大への

期待感がうかがえる。他方、人手不足の影響の深刻化や、原油価格を含む原材料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な見方を崩していない。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、製造業、小売業で悪化、その他の3業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「オフィスビルやホテル建設などの再開発関連工事が多く、売上は改善。収益増を従業員へ還元するとともに、新規人材の確保につなげるため、ベースアップを実施した」（一般工事業）、「人手不足の深刻化による受注機会の損失に加え、人件費・外注費の増大や建設資

材価格の高止まりを背景に、収益の確保にも苦戦している」（管工事業）

【製造業】「米中貿易摩擦の影響に加え、『シリコンサイクル』も調整局面に入っており、前年に比べ受注は激減している。今後も好材料に乏しく、しばらくは売上高の前年割れは避けられない」（半導体部品等製造業）、「受注を安定的に確保できており、売上は堅調。だが、人手不足が深刻化する中、4月から施行される年次有給休暇の取得義務化への対応に苦慮している」（金属製品製造業）

【卸売業】「建設業からの引き合いが好調で、売上は改善だが、中国向けを中心に輸出は減少しつつあり、現状の受注量を維持できるか不安である」（建設資材等卸売業）、「好天を背景とした豊作から、白菜や大根などの農産物価格が下落し、前年に比べ売上は落ち込んだ。4月以降も好天が予想されるため、売上減の長期化は避けられない」（農産物卸売業）

【小売業】「春の観光シーズンの滑り出しが良く、インバウンドのほか、国内観光客の数も伸びている。10連休の需要取り込みに向けて広告宣伝活動を強化し、さらなる売上増を図る」（各種商品小売業）、「消費者の節約志向から、主力の衣料品の売れ行きが鈍く、売上は悪化。世界経済の不透明感が高まる中、富裕層の高額品消費にも陰りが見られる」（百貨店）

【サービス業】「省力化を目的とした開発案件が増加しているほか、5月1日の改元に伴うシステム改修の依頼も多く、売上は改善した」（ソフトウェア業）、「引越したりや貨物配送など、年度末の配送需要がピークを迎えているが、深刻な人手不足から受注しきれない。賃上げを実施したが、依然としてドライバの確保に難航しており、人手不足の解消にはつながらなかった」（運送業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
11月	▲14.9	▲9.9	▲10.2	▲9.3	▲29.2	▲13.2
12月	▲15.7	▲8.1	▲9.7	▲17.1	▲31.6	▲12.4
1月	▲16.0	▲6.3	▲12.0	▲17.9	▲36.3	▲8.6
2月	▲18.1	▲8.5	▲12.2	▲23.1	▲32.4	▲15.6
3月	▲16.9	▲5.8	▲16.6	▲22.4	▲29.5	▲11.7
4月	▲16.7	▲3.9	▲18.3	▲20.5	▲33.9	▲7.9
見通し	▲18.4	▲9.8	▲20.5	▲22.4	▲31.9	▲9.3

柏の景気情報

(4月の調査結果のポイント)

調査期間：2019年4月25日～5月12日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に
ヒアリング、回答数70件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
11月	▲12.8	▲5.5	△12.5	▲38.0	▲13.3
12月	▲12.8	▲21.0	±0.0	▲30.0	△6.2
1月	▲19.7	▲23.5	▲20.0	▲26.9	±0.0
2月	▲24.3	▲33.3	±0.0	▲33.3	▲23.0
3月	▲17.8	▲14.2	▲12.5	▲30.4	▲7.6
4月	▲18.5	▲26.3	△6.6	▲32.0	▲9.0
見通し	▲18.5	▲21.0	±0.0	▲28.0	▲18.1

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

「**柏市の業況**」
全産業況D Iは再び悪
化。先行きは横ばい圏内の
動き

4月の全産業合計のD I
値(前年同月比ベース、以下
同じ)は、▲18.5(前月水
準▲17.8)となり、マイナ
ス幅が0.7ポイント拡大し
た。

業種別では、前月水準と比
べて、マイナスからプラスに
転じた業種は、製造業▲6.
6(同▲12.5)である。マ
イナス幅が拡大した業種は、
幅の大きい順に、建設業▲2
6.3(同▲14.2)、卸小
売業▲32.0(同▲30.
4)、サービス業▲9.0(同

▲7.6)である。

【建設業】からは、「社内で
キャッシュレス化について意
見がまとまらず、暗礁に乗り
上げている」(畳店製造小売
業)、「働き方改革の影響もあ
り、大幅に作業時間が減り売
上、利益も減少。また、キャリ
アアップシステムや登録業務
等が増え、事務処理が忙しい。
毎年4月は売上が減少する
が、今年は極端に落ち込んだ
日、祝日、天候不良による施工
不能日もある為、今後大幅な
売上増加は望めそうにない。
効率良い作業方法で状況改善
するよう取引先に申請中」(職
別工事業)などのコメントが
寄せられた。

も集まらない」(機械・同部品
製造業)などのコメントが寄
せられた。

【卸小売業】からは、「今後
9月までは増税前の消費動向
を見越した仕掛けにより、売
上高増加見込み」(百貨店、
「紙製品、特にコピー用紙の
値上がりが見え」(書籍・文房
具小売業)、「4月は前年に比
べ売上増加したが、3月に比
べると伸びは鈍化」(各種商品
小売業)、「入学入園関連の売
上が昨年より増。イベントも
好調！」(菓子・パン小売業)、
「3月の最悪状態は脱した
が、天気、気温の変化が激しか
った為、客数、客単価共に昨年
対比を下回った」(婦人・子供
服小売業)、「今年は2月下旬
から業績悪化。選挙が多い年
はいつも悪くなるが特に人の
出方が悪い。『ポケモンGO』
を目的の方が集まるも買い物
せず。人件費を確保する為の
技術料も転嫁できない」(時
計・眼鏡・光学機械小売業、
「気温が上がらず春物衣料品
の動向が悪く、値下げをして
採算とれず苦戦」(各種商品小
売業)、「集客の伸びは維持し
ているものの、売上はわずか
に前年割れ。今まで前年を超
えてきた化粧品売上がウィツ
グを除いて停滞」(百貨店)な
どのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「日
本経済は米、中国国にかかる。
米の対中国に対する読みを楽
観視すると国内景気の鈍化を
催促するか。令和の新経済は
来年にオリンピックを控え明
るい方に向かうとするが、
10月からの消費税10%は
相当厳しい」(投資顧問)、「ト
ラック運賃は値上がり基調に
あるものの、荷主の理解を得
られないケースが散見され課
題に」(一般貨物自動車運送
業)、「塾の乱立を考えると「商
業の街」より「教育の街」とし
て色付けをしてくれた方が、
不動産的にはありがたい」(不
動産賃貸業)、「消費税対応が
間もなくと思える」(ソフトウ
エア業)などのコメントが寄
せられた。

【サービス業】からは、「日
本経済は米、中国国にかかる。
米の対中国に対する読みを楽
観視すると国内景気の鈍化を
催促するか。令和の新経済は
来年にオリンピックを控え明
るい方に向かうとするが、
10月からの消費税10%は
相当厳しい」(投資顧問)、「ト
ラック運賃は値上がり基調に
あるものの、荷主の理解を得
られないケースが散見され課
題に」(一般貨物自動車運送
業)、「塾の乱立を考えると「商
業の街」より「教育の街」とし
て色付けをしてくれた方が、
不動産的にはありがたい」(不
動産賃貸業)、「消費税対応が
間もなくと思える」(ソフトウ
エア業)などのコメントが寄
せられた。

◎大型連休の影響

「休みばかり多くて売上が減
少するだろう」(機械器具小売
業)、「大型連休により稼働日数が
少なく売上減少。全体的な景況も
良くない」(自動車付属品製造
業)、「GWを理由に、欠品防止策
の注文が増えて前年の売上を上
回った。しかし、この反動が5月
に来るので先の不透明感はある
。暖冬の影響で、果実の生
育が遅れているとの情報あり」
(食料・飲料卸売業)、「歓送迎会
での宴会予約が昨年より増。超
大型連休の中たるみ等で、売上減
少が見込まれる」(日本料理)との
声寄せられた。

全国の商工会議所早期景気観測調
査(CCI-1080)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が

▲18.5に対し、「CCI-LO
BO」が▲16.7で柏の方がマ
イナス幅が1.8ポイント大き
い。業種別では、「柏の景気」の方
が良い業種は、製造業、卸小売業
であり、製造業は10ポイント以
上良い。「柏の景気」の方が悪い業
種は、建設業、サービス業であり、
建設業は10ポイント悪い。

4月の景気キーワード
◎改元による影響

「改元で景気は上昇ムード
だが業界的には伝わらず、状
況が好転するのを期待」(電気
工事業)、「元号発表後に「あ
りがとう平成」セールを実施。
大きな反響は得られず」(各種
商品小売業)、「改元による活
発な消費動向を感じることは
できなかった」(百貨店)、「元
号切り替え作業は穏やか」(ソ
フトウェア業)との声寄せ
られた。

が不足しており募集を掛けて

が不足しており募集を掛けて